■（２３７）被災地在住として最後のコラムになります

東日本大震災から６年が過ぎ、再び、被災地を離れます。転勤です。「再び」というのには理由があります。5 年前です。大災害を受け、東北に飛び込みました。そのまま 1 年、被災に対峙しました。そして帰還の辞令。何ができたか自問自答しました。今回も同じです。

被災地の復興をどう進めるか。国や地方自治体のやり方が大きな鍵だったはずです。しかし、震災直後の被災地を知る記者として、2 度目の赴任でも、普通の人たちがどんな境遇にあるのか、どんな思いにいるかにこだわりました。誰もが、信じられない恐ろしい体験をして、1 人ではどうしようもない状況に置かれました。仮設住宅にいる普通のおばあさんやおじいさんに話を聞き続けました。その人たちの状況の積み重ねが、被災地の「今」だと思います。彼ら彼女らの表情が、苦悩から笑顔に、1 人でも多くなっていけばいいと願いながら、記事を書いてきたつもりです。力不足で不十分だったのではと反省しています。

今、自らに言い聞かせるのは、離れてからこそ、震災をどう伝え続けるかに向き合えるかが問われるということです。首都圏から引き続き、震災と防災を考えます。（山）